



きた

2021
6 月号

今も残る 北区のむか〜し むかし

北区に残された伝承、伝説を「今も残る北区のむか〜しむかし」として紹介しています。興味をお持ちになったら、由来する場所を調べ、訪ねてみると新たな出会いがあるかもしれません。

大宮地域最古の筆子塔ふでことう(阿弥陀堂あみだ・土呂町)

大宮市教育委員会編「大宮をあるく I〜東部編〜」(昭和63年3月30日刊)42ページ、「阿弥陀堂と筆子塔」から引用



今、阿弥陀堂のあるあたりは、明治5年に廃寺となった浄(城)職院の跡地です。大きな本堂・庫裡・長屋門を構え、塀をめぐらした広大な境内地を有していたという真言宗の寺院でした。江戸時代には寺子屋が開かれ、お坊さんが先生になって村の人達に読み書きを教えました。住職のお墓には教えを受けた人達により享保14年(1729)に建てられ



た俊長和尚の墓石があります。これには「筆子中」とあり、筆子と記されたなかでは市内で最も古いもので、寺子屋に学んだ子供を“筆子”と呼んでいたことがわかります。このほか同墓地内には5基の筆子塔があります。



区内の名所旧跡などの案内をされている大宮観光ボランティアガイド会の中島 留男氏によると、約300年前の江戸時代半ばに見沼代用水が完成し、土呂村には川舟の河岸(発着場)も造られ、用水を利用した江戸との物資・経済交流が盛んとなったとのこと。このため、経済活動の基礎となる教育が必要とされ、江戸時代中期には子どもを寺子屋で勉強させたことから、古くからの筆子塔が数多く残されているそうです。

問合せ 北区コミュニティ課 ☎669・6020 ☎669・6161

「市報さいたま」北区版6月号に掲載した事業については、新型コロナウイルスの影響により、中止や内容を変更する場合があります。詳しくは、市ホームページをご覧ください。各事業の問合せ先へお尋ねください。